

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
平成 30 年 2 月

○ 概要

- (1) 平成 30 年 2 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,211 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）+3.5%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 9,060 円（伸び率+1.2%）であった。（→P.1~2）
調剤医療費の内訳は、技術料が 1,566 億円（伸び率+3.6%）、薬剤料が 4,636 億円（伸び率+3.4%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 860 億円（伸び率+20.1%）であった。（→P.4）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方せん 1 枚当たり薬剤料 5,402 円（伸び率+0.4%）を、処方せん 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.80 種類（伸び率▲0.6%）、22.8 日（伸び率+0.8%）、85 円（伸び率+0.2%）であった。（→P.8,9）
- (3) 薬剤料の多くを占める内服薬 3,703 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）+93 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 732 億円（伸び幅▲43 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 39 その他の代謝性医薬品の +41 億円（総額 537 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 (→P.10~15)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,703 億円 (+93 億円)	21 循環器官用薬 (732 億円)	11 中枢神経系用薬 (636 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (537 億円)
0 歳以上 5 歳未満	34.8 億円 (▲2.4 億円)	44 アレルギー用薬 (12.5 億円)	62 化学療法剤 (7.7 億円)	61 抗生物質製剤 (6.3 億円)
5 歳以上 15 歳未満	96.0 億円 (▲1.9 億円)	44 アレルギー用薬 (37.3 億円)	11 中枢神経系用薬 (17.4 億円)	62 化学療法剤 (11.8 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,305 億円 (+24 億円)	11 中枢神経系用薬 (278 億円)	21 循環器官用薬 (218 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (197 億円)
65 歳以上 75 歳未満	892 億円 (+6 億円)	21 循環器官用薬 (216 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (159 億円)	11 中枢神経系用薬 (106 億円)
75 歳以上	1,375 億円 (+67 億円)	21 循環器官用薬 (295 億円)	11 中枢神経系用薬 (235 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (176 億円)

- (4) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,060 円（伸び率+1.2%）で、最も高かったのは北海道（11,157 円（伸び率+7.0%））、最も低かったのは佐賀県（7,847 円（伸び率+2.6%））であった。
また、伸び率が最も高かったのは福井県（伸び率+7.0%）、最も低かったのは鳥取県（伸び率▲1.5%）であった。（→P.27~28）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品薬剤料】 860 億円（伸び率：+20.1%、伸び幅：+144 億円）（→P.36~37）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	72.5%	+4.0%
薬剤料ベース	18.6%	+2.6%
後発品調剤率	71.7%	+3.4%
（参考）数量ベース（旧指標）	49.7%	+4.3%

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕〕で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+20.1%	+27.1% (70 歳以上 75 歳未満)	+8.1% (15 歳以上 20 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.6%	20.1% (65 歳以上 70 歳未満)	11.7% (10 歳以上 15 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~44）

年齢区分 (→P.38~44)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	767 億円 (+133 億円)	21 循環器官用薬 (248 億円)	23 消化器官用薬 (104 億円)	11 中枢神経系用薬 (81 億円)
0 歳以上 5 歳未満	6.8 億円 (+1.2 億円)	44 アレルギー用薬 (2.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.2 億円)	61 抗生物質製剤 (1.1 億円)
5 歳以上 15 歳未満	17.8 億円 (+3.4 億円)	44 アレルギー用薬 (10.1 億円)	61 抗生物質製剤 (2.9 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.7 億円)
15 歳以上 65 歳未満	266 億円 (+46 億円)	21 循環器官用薬 (72 億円)	44 アレルギー用薬 (44 億円)	11 中枢神経系用薬 (36 億円)
65 歳以上 75 歳未満	192 億円 (+35 億円)	21 循環器官用薬 (80 億円)	23 消化器官用薬 (25 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (19 億円)
75 歳以上	284 億円 (+47 億円)	21 循環器官用薬 (96 億円)	23 消化器官用薬 (49 億円)	11 中枢神経系用薬 (33 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,255 円	1,674 円（北海道）	1,052 円（佐賀県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+17.5%	+25.6%（福井県）	+14.1%（鹿児島県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	72.5%	82.6%（沖縄県）	64.6%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.6%	22.7%（鹿児島県）	15.7%（徳島県）
後発医薬品調剤率	71.7%	81.2%（沖縄県）	65.4%（山梨県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	49.7%	59.9%（沖縄県）	44.7%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成30年2月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。